

ボランティアの社会的紐帯から見た 災害に強い地域社会の考察

松田 曜子¹

¹ 関西学院大学災害復興制度研究所

E-mail: ymatsuda@kwansei.ac.jp

昨今の「災害に強いまちづくり」という公共的課題には、個々人の備えだけではなく、地域内における様々な社会的要因が影響していると考えられる。さて、被災地で活動する比較的若いボランティアと地域で減災活動に従事するリタイア世代主体のボランティアには社会的紐帯の点で明らかな属性の違いがある。また、東日本大震災後、足湯活動を行った若いボランティアは、その活動の中で、被災者との強い個人的つながりを求めており、被災者もまた、若者たちとの一時的であっても新しい「人間関係」を足湯ボランティアに求めていることがわかった。以上のような事実と考察から、ボランティアにとっての「守るべき対象」の存在が、「災害に強い地域」の要件になっていることを説明する。

キーワード：災害に強い地域、ボランティア、社会的包摂